



## 令和6年度 府中市立南町小学校 経営報告

### 1 今年度の取組と自己評価

#### (1) 教育活動への取組と自己評価

「たくましい子」 主体的に学び、健康な体作りをするたくましさ【実践力】

「たくましい子」の目標について、年間の取り組みを通して以下の成果を得た。

- ◎「令和5年・6年度 東京都体育健康教育推進校」の研究発表に向け、様々な活動を実施したことで、体力の向上、健康への意識向上が見られた。
- ◎保護者の学校評価で「運動や遊びを通して体力を高めている」という項目で81%の肯定的評価を得た。また、85%の児童が「運動する時間をふやそうとしている」と回答した。
- ◎1学期「体カテスト」2学期「マラソン」3学期「なわとび」と集中して運動し、運動の習慣化につながった。
- ◎「ふちゅうロープチャレンジ」では、全学年がチャレンジし、1年、3年、4年、6年、特別支援学級で上位入賞を果たした。中でも3年生は、1組が優勝、2組が4位入賞と学年で健闘した。

「思いやりのある子」 自分も人も大切に作るやさしさ【人間関係形成力】

「思いやりのある子」の目標について、年間の取組を通して以下の成果を得た。

- ◎教育の重点として「みんなは一人のために 一人はみんなのために」  
～ One for all All for one ～を掲げてきた。保護者の学校評価で「友達と仲良く生活している」は91%の肯定的評価を得た。また、94%の児童が、「友達にやさしくしようと仲良く生活している。」と回答した。
- ◎ふれあい月間の取組として、6月に「人権標語」の取組、11月に「ココロの天気予報」、2月に「ありがとうの木」の取組を実施でき、全校で人権について考え、感謝の気持ちをすなおに表す意欲が高まった。6年生は、人権をテーマにした作文を書いた。自他を大切に作る心情を養うことができた。

## 「努力する子」 社会の一員として社会や自分の課題にチャレンジ【問題解決力】

「努力する子」の目標について、年間の取組を通して以下の成果を得た。

- ◎保護者の学校評価「学習や行事などの目標に向けて、努力している」の項目で91%の肯定的評価を得た。また、86%の児童が「学習や行事などの目標に向けて、努力している」と回答した。
- ◎教育の重点として「自慢できるクラス、学年をつくろう。誇れる学校をつくろう。」と掲げた。児童、教職員に呼び掛け、2学期末から3学期にかけて全学年全クラスの「クラス、学年自慢」を全校朝会で発表した。よりよいクラスをつくろうとする向上心、所属感が高まり、クラスを誇りとする意識が芽生えた。来年度も発表の方法を工夫して、継続する。

## 〈目指す教職員像への取組と自己評価〉

### 「地域協働・チーム南町小・笑顔の学校」として組織的に協働できる教職員

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
- (2) 「OJT」に取り組み、学び続ける。
- (3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。
- (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。
- (5) 教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
- (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。「50周年行事準備」
- (7) 法令遵守、服務規律の徹底。
- (8) 矢崎小学校・府中第三中学校との小中連携、一貫教育を推進する。
- (9) 働き方改革「男性職員の育業取得の促進」
- (10) 危機管理

「目指す教職員像」について、上記の取組を実施し、以下の成果を得た。

- ◎学校経営支援事業・副校長等校務改善事業を有効に活用できた。
- ◎校内研究会、職員会議や職員夕会の時間枠を有効活用し、「ミニ研修会」などの「OJT」に取り組んだ。若手、ベテランに関わらず、日常での「学び続ける習慣」が身に付いてきた。次年度は、「ミニ研修会」を更に工夫し、改善して取り組む。
- ◎「ひばり教室」3年目は、拡大校内委員会を開くなど連携を図ることができた。
- ◎関係各所と連携し、「水害避難訓練」「地域総合防災訓練」「50周年準備委員会」など、活動ができた。
- ◎「小中連携の日」を中心に、授業改善、生活指導での連携など、三中学区の小中一貫教育の推進ができた。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

### 児童の重点目標への取組と自己評価

#### 1 「たくましい子」

オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

#### 2 「思いやりのある子」

ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

#### 3 「努力する子」

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

「児童の重点目標」について、上記の取組を通して、以下の成果を得た。

「たくましい子」オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

◎保護者の学校評価「学校は一人一人の子供のよさを認め、励ますことを大切にしている。」項目で83%の肯定的評価を得た。

毎日の教育活動の中で、一人一人の子供のもつよさに気付き、認め合えるように、「教師の励まし」や「子供からの称賛」を続けていく。

◎自慢できるクラスづくり、誇れる学年づくりに取り組み、2学期末から3学期にかけて、クラス・学年自慢を全校朝会で発表でき、自己肯定感が高まった。

「思いやりのある子」ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

◎保護者の学校評価「自分から挨拶できる。」の項目で72%の肯定的評価を得た。また、80%の児童が「自分からすすんで挨拶できる。」と回答した。

来年度は、たてわり班で挨拶当番を実施し更に挨拶のできる子供たちに育てていく。

「努力する子」オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

【目標：3年生以上 学年×1,000ページ以上、達成率70%

1年生100冊以上、2年生200冊以上、達成率80%以上】

◎全校で学期ごとに読書旬間を設け、取り組んだ。結果は、下記のとおりである。

・1年生100冊以上 19% ・2年生200冊以上 5%

学年×1000ページの達成率

・3年生、10% ・4年生、14% ・5年生、14% ・6年生、20%

◎保護者の学校評価「読書を楽しみ、よく読んでいる。」の項目では、52%の肯定的評価であった。これは、全項目の中で二番目に低かった。また、児童の「読書を楽しみ、よく本を読んでいる。」の回答は、64%であった。

児童は、学校図書館で本を借りているが、読書の記録をしっかり付けているか、目標が高すぎるのか、図書部で検討し、次年度の取り組み方について再考する必要がある。

## 教職員の重点目標への取組と自己評価

(3) 教員は「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。

【目標：学校評価80%以上】・週案簿の提出、100%を継続する。

(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。

【目標：学校評価80%以上】

(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。

【目標：学校評価80%以上】

(9) 働き方改革【目標：全教職員 1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

「教職員の重点目標」について、年間の取り組みを通して以下の成果を得た。

(3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。

【目標：学校評価80%以上】・週案簿の提出、100%を継続する。

◎保護者の学校評価「学校は分かる、できる授業に努めている。」の項目で79%の肯定的評価を得た。目標には、わずかだが、届いていない。また、93%の児童が「授業で学習したことが、分かっている」と回答した。

次年度以降も授業改善プランの更なる工夫や学力向上の手だてが必要である。

◎校内研究の研究主題を「運動に親しみ、自ら健康を促進できる児童の育成～『やりたい・みんなと・よし!できた!』を実感する南っ子～」とし、令和5・6年度の東京都教育委員会 体育健康教育推進校として1月17日に研究発表会を行い、市内外に研究の成果を発表することができた。

(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、行動する。【目標：学校評価80%以上】

◎保護者の学校評価「学校は、交通安全指導や様々な避難訓練を通して『安全・安心』に努めている」の項目で、91%の肯定的評価を得た。また、96%の児童が「自分の身は自分で守ろうと心がけている。」と回答した。

◎「南町小地域防災連絡会」の支援を得て、「水害避難訓練」や「総合防災訓練」を継続していることが評価され、「地域の防火防災功労賞」の優良賞を受賞することができた。次年度以降も、関係諸機関と連携、調整して、南町小の防災文化を継続していく。

(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。【目標：学校評価80%以上】

保護者の学校評価「学校はお便りやホームページ、保護者会、土曜公開授業を通して、学校での教育活動を分かりやすく伝え公開している。」の項目で、92%の肯定的評価を得た。「地域協働、チーム南町小、笑顔の学校」を合言葉に、次年度も更に、学校の情報発信に努め、地域に根差した学校づくりを実践する。

(9) 働き方改革【目標：全教職員 1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

全教職員、1か月の定時外在校等時間の45時間未満を達成することができなかった。「スマート連絡帳」や「PC 掲示板」は、有効活用された。

引き続き、学校経営支援事業、副校長等校務改善事業を有効に活用し、ICTの有効活用を促進し、更に業務の効率化、合理化を推進する。

## 2 次年度以降の課題と対応策

- ◎府中市教育委員会からまとめられた「積極的な熱中症対策」に全教職員で取り組む。
- ◎資質・能力を育成するために教科の授業を中心に全ての教育活動において、4つの視点、「発見」「対話」「決定」「表現」を取り入れた活動を実施する。(週案への記載、黒板への提示)次年度は、府教研の活動場面や小中連携の日の授業公開においても取り入れて実践を積み重ねる。
- ◎カリキュラム・マネジメントを推進し、教育目標の達成を図る。
  - ・教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営みを推進する。
  - ・教務主幹を中心として、学校教育の効果を常に検証し、学校評価を反映、改善するシステムを見直す。来年度は、「学年末学校評価」ではなく、気付いたときに「学校評価」ができるよう日常的に評価を記入できるようにし、12月から1月でまとめる形式に改善する。
  - ・年度当初、合理的な校務分掌に改善し、教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、南町小の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを実践できるようにする。
  - ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教育目標を踏まえた教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程を創造できるようにする。
  - ・教科担任制など、学年で取り組めるところは取り組み、授業の質を高め、学習効果を上げる。
- ◎「サポートルーム」の運営を軌道に乗せる。教室に行くことに抵抗のある児童のよい居場所になり、教室への滑走路的な場所となるよう、支援に取り組む。
- ◎「ふくむニュースレター」など、サービスに関する通知は、校務支援システムの掲示板にアップし、読後、確認の返信を全員に求めた。常にサービス事故は誰にでも起こりうるという謙虚さや危機管理意識をもって、業務にあたり、「サービス事故0」に1から取り組む。
- ◎「おすすめ本カード」の作成、掲示や「読書郵便」、「親子読書」の活動を通して、校内で図書情報を共有し、読書の楽しさを共感できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。また、「読書貯金通帳」や「読書レストラン」など、発達に合わせた読書カードを活用し、丁寧に読書の記録を取れるよう工夫する。